

なからぎ

255号

2026.10

特集

文藝部 × 図書館コラボ

本から手わたす言葉

～一冊からはじまるリレー～

目次

本から手わたす言葉
～一冊からはじまるリレー～

図書館からのお知らせ

秋の企画展示
～写真部×図書館コラボ～
「まなざしの秋」

展示+Webで
レポート・論文作成を応援!

編集後記

本から手わたす言葉 ～一冊からはじまるリレー～

本を読むとき、ふと心に浮かぶ思いがあります。登場人物への感情や作者への問いかけなど、言葉になる前に過ぎ去ってしまいがちな、いくつもの思い。今年で4回目となる府大文藝部とのコラボ企画では、部員の皆さんが1冊の本から受け取った思いを、誰かへのメッセージとしてそれぞれの言葉で綴ります。それを受けて、図書館員が新たな1冊を選び、言葉を添えます。本から生まれた言葉が次の一冊、またその先へ。本と言葉がつながるリレーをお楽しみください。

本と言葉のリレー



掲載図書は「なからぎ展示コーナー」にて配架中です(貸出可)

Message

今年度も機会に恵まれ今回の文藝部と図書館さんとのコラボ企画を実現することができました。今回は、本を読んだときにふと浮かび上がってくる感情を誰かへのメッセージとして綴り、図書館員の方々と言葉を交わし合うという企画になっています。普段であれば自分の心の内に留めておく想いをメッセージとして誰かに伝えるということは、単なる読破したのちの感想の交流会とは一種異なっているため、新鮮な心持ちで本企画に挑戦しました。本から生み出される多彩な想いと紡ぎ

合いによって、本の世界がさらに広がっていくことを願っています。今回このような貴重な機会を頂いたため軽く文藝部について紹介させていただくと、普段文藝部では部員それぞれで自由な創作活動を行い、学祭などで年4回ほど部誌を発行しています。もし文藝部の活動に興味があれば部誌を手にとっていただいたり、部の見学に来ていただければ幸いです。

京都府立大学文藝部部長 谷口 巧隼



溝口 十 (森林科学科・1 回生)

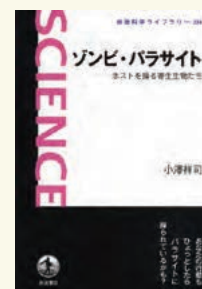


『君たちはなぜ、そんなことをしてるのか？
東大准教授のひそやかな動物行動学講義』
松原始著
山と溪谷社 2025.8
請求記号:481.78||M

Message

自分にとって、高校生物の授業は少し退屈なものでした。生物、という名前を聞いて想像した内容と、実際の授業内容は、大きく外れていたのです。もちろん、生物科目で習ったことすべてが退屈だったわけではありません。受験科目として暗記が多かったことも結構。しかし、私が生物の授業に夢見たのは、動物について——動物がどのような特徴を持ち、どうやって日々を生き抜くのか、知ることだったのです。この本はそんな私の憧れを満ちし、さらには科学や生物に対する考え方、生物という学問に対する扉を開いてくれました。生き物について学ぶワクワクがいっぱいに詰め込まれたこの本を読むことが、自分にとって最高の生物の授業になったのです。

次の一冊



『ゾンビ・パラサイト：ホストを操る寄生生物たち』(岩波科学ライブラリー)
小澤祥司著
岩波書店 2016.12
請求記号:468.4||O



わたしの意思是本当にわたしのものだろうか？ 宗教的な意味の「生かされている」というのとは違う、何か別の「もの」に生かされているのだとしたら??? 司書N



甘楽鼓 雪 (理工情報学科・3 回生)



『河童・或阿呆の一生』(新潮文庫)
芥川龍之介著
新潮社 1968.12
請求記号:913.6||A

Message

彼が残した第23号の話は、実に空想的で、子供のころに訊いたおとぎ話のようなものであった。第23号の周りの人々は、彼の話をかつて彼自身が本当に経験したことだとは真剣に捉えていなかったようだが、私にはその価値観が全く異なる河童の世界が全くもって現実離れしているようには思えなかった。河童の世界ほど極端でなくとも、この世界でも普段生活する空間を少し離れれば異なった価値観を持った人たちが暮らしている。子供のころ恐怖していた夜の世界には、眼前の闇の中には確にお化けは存在していた。私たちが見えていない、あるいは、忘れてしまっているだけでまだまだ知らない世界が広がっているはずである。少し歩けば反対の考えを持つ人も、かつて見えていた人もいる。もしかすると梓川のほとりを歩いていれば、今でも河童がひょっこりと顔を一彼のかつて語っていたように一覗かせているのかもしれない。

次の一冊



24は好きな数字だが、第24号とは呼ばれたくない。何事も数字で測ろうとする価値観への抵抗と、数字や記号の美しさと同時に、形には捉えられない世界。第23号の向こうに星の王子さまの姿が浮かぶ。果たして、芥川龍之介の命日は24日であった。

司書U

『星の王子さま』(岩波文庫)
サン＝テグジュペリ作；
内藤濯訳
岩波書店 2017.7
請求記号:953.7||S





雅樹（日本・中国文化学科・2回生）

Message

ふうと、溜め息を吐いていた。

読み終えたという達成感に。

つうと、天アンカットをなぞっていた。

読み終えてしまったという名残惜しさに。

読み終わってからしばらくの間、私の脳裏には一つの疑問が張り付いた。

『『知ること』は、幸せなことだろうか』

主人公チャーリーは、「知ことは良いことだ」と言う。「良いこと」と「幸せなこと」は、違う。

チャーリーは誰よりも勝る知能を手に入れた。

その後のチャーリーは、幸せと言えただろうか。

賢くなって、広い世界のやっとな片鱗が見えた。

賢くなって、人々が持つ知識の限界が見えた。

賢くなって、周りの人たちの真意が見えた。

そのうちのいくつか、チャーリーに幸せをもたらしただろうか。

私には、むしろ知らない方が良かった真実に気付いてしまったのだ、というふうに思える。

『アルジャーノンに花束を』
（ハヤカワ文庫）

ダニエル・キイス著；小尾美佐訳

早川書房 2015.3

請求記号：933.7||K



次の一冊

『星野道夫著作集』1

星野道夫著

新潮社 2003.4

請求記号：295.394||H||1



アラスカの自然の中で星野は問う。人は知ること何を得て、何を失うのだろうか。本書は、未知なる世界への畏怖と深い安らぎを追体験させてくれる。知ることよりも、知りたいと思える世界があることこそ幸福なのかもしれない。

司書U

Message

朝（歴史学科・2回生）

もし「結婚してください」とかなんだとか、人生を歩む約束を求められたとき、安易にこうべを縦に振ってはいけけないのかもしれない。それはあなたを頭から足の指先まで食べて全部飲み込んでしまうぞという予告かもしれないし、はたまたあなたに骨の髄まで残さず咀嚼してほしいという願望かもしれない。特にあなたが人に容易く従ってしまう人間なら、瞬きする間に跡形もなくなっているかもしれない。

それでもうんと了承してしまうなら、いつそのこと「あなたのデオキシリボ核酸が好き」と言っていて……いやでもこれだと死んだら好きじゃないみたい。「全部食べて、骨も抜きにする」と言うのも、心許ない。やつぱり、愛の形からは逃げていくのがいいかもしれない。薬指を奪っても奪われても、二人の間には猫とか宝石とか堤防とかを隔てるのがあるのかもしれない。堤防なんかがあつたら生きていけないかな、そうだろうか、じゃあどうする。婚姻はどうしようか。



『異類婚姻譚』

本谷有希子著

講談社 2016.1

請求記号：913.6||M



次の一冊

『ハリール・ジブラーンの詩』
（角川文庫）

ハリール・ジブラーン著；神谷美恵子訳

KADOKAWA 2003.9

請求記号：929.761||K



「共にありながら、互いに隙間をおき、二人の間に天の風を踊らせておきなさい」—— 予言者アル＝ムスターファーが結婚について説く、ひとつの理想のかたち。実に美しい。

司書Y



図書館からのお知らせ

秋の企画展示 写真部×図書館コラボ

ただいま企画展示コーナーでは、府大写真部の皆さんの作品と、それぞれの写真から図書館員がインスピレーションを受けて選んだ本を展示しています。また、来館者参加企画として、写真を見て浮かんだ「タイトル」や「メッセージ」も募集中！ぜひお立ち寄りください。

期 間 2026年10月1日(木)～12月27日(日)

場 所 2階フロア開架雑誌棚上

テーマ まなざしの秋：写真がひらく本の扉



●写真から連想した本（抜粋）

写真と一緒にぜひ展示会場でご覧ください！



『ブラタモリ 17』

NHK「ブラタモリ」制作班監修

KADOKAWA 2019.3

請求記号：291.09||N||17



『水運史から世界の水へ』

徳仁親王著

NHK出版 2019.4

請求記号：517.04||N



『西の魔女が死んだ』
（新潮文庫）

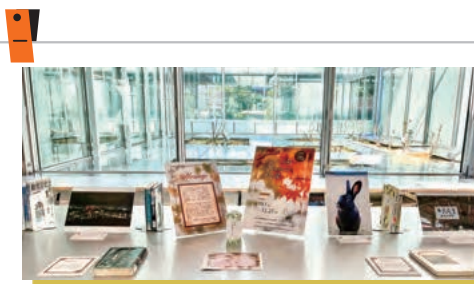
梨木香歩著 新潮社 2001.8

請求記号：913.6||N

Message

本や写真は、作品を通して「まだ見ぬ情景」や「表現者の想い」を伝え、見る人の想像力を大きく広げてくれる魅力を持っています。今回は、写真部の作品と、そこから連想される図書館の本と一緒に展示しました。皆さんは作品をご覧になって、どのように感じられたでしょうか？ぜひご自身の解釈で、本や写真を楽しんでいただければと思います。企画を通して、皆さんの日常の中に新しい想像のきっかけが生まれれば幸いです。

京都府立大学写真部部長 井上 沙英



写真にタイトルをつけてみませんか

写真を見て思い浮かんだタイトルやメッセージをお寄せください。掲載OKをいただいたものを一部展示予定です。



展示+ Webでレポート・論文作成を応援!

附属図書館では、府大生の皆さんへの学習支援として「レポート・論文作成ガイド」を展示しています。

講義やゼミの課題、卒論と、大学生活を送るうえで必須と言えるレポートや論文の執筆。その書き方はもちろん、資料の探し方からデータベースの使い方まで、図書館をどのように活用すればよいかをわかりやすくまとめています。

また、図書館ホームページ内にも、「学習支援」および「レポート・論文作成ガイド」ページを作成しました。こちらでは、レポート・論文執筆の際のテーマの決定、情報収集に焦点を当て、より詳しく説明しています。

内容は今後も追加・更新していきますので、ブックマーク等でぜひご活用ください。



2階相談カウンター前

アクセス方法

● PCから

図書館HPトップ ➡ 利用案内「学内の方」 ➡ ページ内目次「学習支援」



● スマートフォンから

二次元コードを読み込んでください



編集後記

今号では、本学文藝部と写真部の皆さんにご協力いただいた、2つのコラボ企画を中心にお届けします。本や写真の紹介にとどまらず、届け手の思いを受け止め、言葉を紡ぎ、次の一冊を選んでみました。学生と司書のやりとりから、さらに別の風景や一冊へと広がる連想をお楽しみください。企画展示コーナーの投票箱へ、そんな連想のひとつをお寄せいただければと思います。展示を彩る一言を、ぜひお待ちしております。(K.U.)

撮影note

表紙@琵琶湖博物館

写真部の撮影会で琵琶湖博物館に行った時、素敵なジオラマに注目した一枚です。さて、ありがたいことに、府大図書館様と弊部がコラボする機会をいただきました! 参加型の企画もごさいます、ぜひお越しください!

(府大写真部・新家悠斗)

『なからぎ』京都府立大学図書館報 255号 ISSN:1344-5561

2026年10月発行 編集発行人:東昇

発行所:京都府立大学附属図書館 〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町1-5

TEL) 075(703)5128~5131 FAX) 075(703)5192

HP) <https://www.kpu.ac.jp/library/>

X(旧 Twitter) アカウント名:京都府立大学附属図書館(@kpu_library)

▼図書館HP ▼X(旧 Twitter)

